

春季史跡見学会のおもな見どころ

ゴシック体は『日本史用語集』（山川出版社）収録の用語

【午前】

○東禅寺

東禅寺には、安政 6（1859）年に日本最初のイギリス公使館が置かれ、公使のオールコックが駐在した。安政 7（1860）年 1 月、公使付きの通訳が門前で 2 人の侍に殺害され、文久元（1861）年には攘夷派の水戸藩浪士によって寺が襲撃される（東禅寺事件）。オールコックは難を逃れたが、書記官らが負傷し、水戸藩浪士、警備兵の双方に死傷者が出た。

○カトリック高輪教会

元和 9（1623）年 12 月宣教師を含む信者 50 名は小伝馬町の牢から江戸市中を引き回され、東海道沿いの札の辻（現在の田町駅付近）から品川に至る小高い地で、火刑に処せられた。その後も、この地で禁教に関連して 100 名近くの人々が処刑され、江戸全体では、2000 名近くの人が殉教した。これを江戸の大殉教という。これらの殉教者を称えて、聖堂前庭には「江戸の殉教者の顕彰碑」が建てられている。

○品川御殿山（御殿山庭園）

品川区北品川にある高輪台地の最南端に位置する高台である。

徳川家康が江戸城に入ってから、この場所にあった城は正式に「品川御殿」と呼ばれ、歴代将軍の鷹狩の休息所や幕府重臣を招いての茶会の場として利用されていたほか、桜の名所として有名であった。（徳川将軍家による御殿の図面は品川区立品川歴史館に所蔵）この御殿を最も多く利用したのは徳川家光で 200 回近くを数えた。

幕末期には、国防のための台場建設用土砂採取場となり、山の北側が窪地となった。また、開国後の文久元（1861）年、幕府は英国をはじめ諸外国の公使館を御殿山に建設することを計画した。しかし、翌年 12 月、完成間近のイギリス公使館を高杉晋作・井上馨・伊藤博文ら尊王攘夷派 13 名が襲撃し全焼した。（英国公使館焼き討ち事件）

○品川宿

慶長 6（1601）年に、中世以来の港町として栄えていた品川湊の近くに設置され、北宿、南宿、新宿にわかれていた。五街道の中でも重要視された東海道の初宿であり、西国へ通じる陸海両路の江戸の玄関口として賑わい、他の江戸四宿と比べても旅籠屋の数や参勤交代の大名通過の数が多かったとされる。

○問答河岸の碑

沢庵和尚は紫衣事件により流罪となったが、徳川秀忠死去による大赦で許され大徳寺に戻った。その後、二条城で沢庵と接見した将軍家光は沢庵を気に入り、家光主宰の茶会にも招く等の厚遇に加え、品川御殿に隣接する地を沢庵に与えて東海寺を建立する。家光は頻繁にこの東海寺を訪れており、沢庵が北品川の河岸に家光を迎えに出たときの問答が『徳川実記』に残る。「海近くして、東海寺（遠海寺）とはいかに」との家光の問い掛けに、沢庵が「大君（たいくん）にして将軍（小軍）と称し奉るがごとし」と返したといわれている。この河岸は後に「問答河岸」と呼ばれるようになった。

○利田神社・鯨塚

利田神社は、江戸時代初期に、**沢庵和尚**が旧目黒川の河口の海に突き出た砂洲に弁才天を祀ったことが始まりと伝えられ、明治初年の神仏分離で利田神社となった。洲崎弁天は、歌川広重の『名所江戸百景 品川すさき』に描かれ、江戸時代後期の天保年間、斎藤月岑が7巻20冊で刊行した江戸の地誌『江戸名所図会』にも記載されている。

寛政10(1798)年5月に、1頭のクジラが品川沖に迷い込み捕獲される。これが「寛政の鯨」と呼ばれる江戸の珍事のひとつ。クジラは舟で浜御殿まで運ばれ、将軍**徳川家斉**も鑑賞した。脂を絞って残った頭骨は、当時の洲崎弁天の境内に埋められ、鯨塚が建立された。この鯨塚は、高さ103cm、幅153cm、厚さ31cmの自然石で、一見すると**富士講**の碑のようなかたちをしている。鯨塚の正面には谷素外の俳句「江戸に鳴る 冥加やたかし なつ鯨」が刻まれている。隣接する品川浦公園にはクジラ頭部のモニュメントも設置されている。

○台場小学校

校名の「**台場**」は幕末の東京湾に築造された「お台場」と由来を同じものの、唯一陸から張り出す形で造られた「御殿山下台場」の跡地に設立されたことに由来する。

○聖蹟公園（品川宿本陣跡）

東海道品川宿の**本陣跡**。品川三宿のほぼ中央に位置している。明治5(1872)年に宿駅制度が廃止された後は警視庁品川病院となり、昭和13(1938)年に公園として整備される。明治元(1868)年の明治天皇東幸の際に行在所となったため「聖蹟公園」という名がついている。

○品川神社（品川富士、板垣退助墓、）

品川神社は文治3(1187)年創建、**源頼朝**が安房国の洲崎明神を勧請したことが始まりと言われている。境内には宝物殿や神楽殿、**板垣退助**の墓や「板垣死すとも・・・」の碑や**富士塚**がある。

【午後】

○品川硝子製造所跡碑

明治初期に設立された官営ガラス工場。明治9(1876)年に士族丹羽正庸が建てた北品川宿硝子製造場（興業社）を国が買い取り発足した。その後、**品川硝子製造所**となり、後に、**工部省**品川工作分局と改称した。ガラス器具類などを試作したが、70年代後半には、一部の官営工場や鉱山などと同様に、毎年赤字が累積され、その後官有物払い下げ事業の一つとして、磯部栄一（士族）・西村勝三（平民）に払い下げられた。

○東海寺

旧東海道品川宿にある寺院。寛永16年(1639年)**徳川家光**が**沢庵和尚**を招いて創建。幕府の庇護を受けた巨刹だったが明治維新後の**廃仏毀釈**で廃寺となった。その後、子院の玄性院がその名跡を継承したのが現在の東海寺である。なお、廃寺となった東海寺は品川神社の別当寺で、**小堀遠州**が造った庭園もあったとされる。

○浜川砲台跡（土佐藩下屋敷跡）

嘉永6(1853)年の**ペリー**来航後、江戸防備のために**土佐藩**が砲台の建設を願い出、翌年ペリーが再来航した際に造られた砲台が浜川砲台である。当時は八門の大砲が設けられた。2015年に、その跡地である「新浜川公園」にそのうちのひとつで最も大きかったという「30ポンド6貫目ホーイッスル砲」のレプリカが造られ、品川区に寄贈された。